

3106-2

9. 3

帝國政府ノ對米通牒覺書(案)

一六一二三

一、帝國政府ハ「アメリカ」合衆國政府トノ間ニ友好的瞭解ヲ遂ケ

共同ノ努力ニ依リ兩國カ太平洋地域ニ於ケル平和ヲ確保シ以テ

世界平和ノ招來ニ貢獻セントスル眞摯ナル希望ニ促サレ本年四

月以來合衆國政府トノ間ニ兩國間國交ノ調整増進竝ニ太平洋地

外務省

S 1.1.3.1-1

1645

234

58

外務省

S 1.1.3.1-1

1644

233

加十 他國政府ヲレテ有協定ノ添字別添字セル件

所記添字ノ同一且解 華位リテ決定セル事アリ

域ノ安定ニ關シ誠意ヲ傾ケテ交渉ヲ繼續シ來リタル處過去八ヶ
月ニ亘ル交渉ヲ通シ合衆國政府ノ固持セル主張竝ニ此間合衆國
ノ帝國ニ對シ執レル措置行動ニ付深甚周到ナル考慮ヲ加ヘ茲ニ
率直ニ其ノ所信ヲ合衆國政府ニ開陳スルノ光榮ヲ有ス
ニ、東亞ノ安定ヲ確保シ世界ノ平和ヲ促進シ以テ萬邦ヲシテ各々其

外
務
省

§ 1.1.3.1-1

1646

235

ノ所ヲ得セシメントスルハ帝國不動ノ國是ナリ

然ルニ中華民國ハ帝國ノ眞意ヲ解セス不幸ニシテ支那事變ノ發
生ヲ見ルニ至レルモ帝國ハ平和克服ノ方途ヲ講スルト共ニ戰禍
ノ擴大ヲ防止センカ爲終始最善ノ努力ヲ致シ來レリ客年九月帝
國カ獨伊兩國トノ間ニ三國條約ヲ締結シタルモ亦右目的ヲ達成

外
務
省

§ 1.1.3.1-1

1647

236

センカ爲ニ他ナラス

然ルニ合衆國及英帝國ハ東亞ノ現實ノ事態ヲ無視シ凡有手段ヲ
竭シテ蔣政権ヲ援助シ以テ日支全面和平ノ成立ヲ妨碍シ東亞ノ
安定ニ對スル帝國ノ建設的努力ヲ控制セルノミナラス或ハ蘭領
印度ヲ牽制シ或ハ佛領印度支那ヲ脅威シ帝國ト此等諸地域トカ

外務省

s 1.1.3.1-1

1648

237

相携ヘテ共榮ノ理想ヲ實現セントスル必然的要求ヲ阻止セリ更

ニ帝國カ佛國トノ協定ニ基キ佛領印度支那共同防衛ノ措置ヲ講
スルヤ合衆國政府及英國政府ハ之ヲ以テ自國領域ニ對スル脅威
ナリト曲解シ和蘭及重慶政権ヲ誘ヒ資産凍結令ヲ實施シテ帝國
トノ經濟斷交ヲ敢テシ明カニ敵對的態度ヲ示スト共ニ帝國ニ對

外務省

s 1.1.3.1-1

1649

238

スル軍備ヲ増強シ帝國包圍ノ態勢ヲ整ヘ以テ帝國ノ存立ヲ危殆
ナラシムルカ如キ情勢ヲ誘致スルニ至レリ

右ニ拘ラス帝國政府ハ本年八月事態ノ急速收拾ノ爲帝國總理大
臣ト合衆國大統領ト會見シ大局的見地ヨリ兩國間ニ存在スル太
平洋全般ニ亘ル重要問題^ヲ討議検討センコトヲ提議セリ然ルニ

外務省

239

S 1.1.3.1-1

1650

240

合衆國政府ハ右申入レニ主義上贊同ヲ與ヘ乍ラ之カ實行ハ兩國
間重要問題ニ關シ意見一致ヲ見タル後トスヘシト主張シテ讓ラ
ス遂ニ實現ノ機ヲ失シタルハ帝國政府ノ遺憾トスル所ナリ

三、依テ帝國政府ハ九月二十五日從來ノ合衆國ノ主張ヲモ充分考慮
ノ上米國案ヲ基礎トシ主要問題ヲ網羅セル一案ヲ提示シテ新ニ

外務省

S 1.1.3.1-1

1651

交渉ノ基礎タラシメントセルモ合衆國政府ハ終始當初ノ原案ヲ
固執シ徒ニ帝國ノ讓歩ヲ要請スルノミニテ終ニ協調的態度ニ出
テス交渉ハ依然澁滞セルヲ以テ十一月二十日ニ至リ帝國政府ハ
事態ノ急迫セルニ鑑ミ兩國々交ノ破綻ヲ回避スル最後ノ試ミト
シテ當面ノ緊急問題ニ關シ公正ナル妥結ニ達シ以テ局面打開ヲ

外務省

241

S 1.1.3.1-1

1652

計ルヘク更ニ新提案ヲ提示シタルモ合衆國政府ハ之亦討議ノ基
礎ト爲シ得ストシテ審議ヲ拒否シ遂ニ十一月二十六日ニ至リ帝
國政府ニ於テ到底容認シ難キコトヲ熟知シツツハケ月ニ亘ル從
來ノ交渉経緯ヲ全然無視セル理不盡ナル提案ヲ爲スニ至リタル
ハ帝國政府ノ最モ遺憾且不可解トスル所ナリ

外務省

242

S 1.1.3.1-1

1653

四 交渉開始以來帝國政府ハ終始専ラ公正且謙抑ナル態度ヲ以テ鋭
意妥結ニ努メ屢々難キヲ忍ヒテ能フ限リノ讓歩ヲ敢テシタルカ
交渉上重要事項タリシ支那問題ニ付テハ極メテ寛容ナル和平大
綱ヲ提示シ撤兵其他ノ問題ニ付テモ進テ協同的態度ヲ示シ合衆
國政府ノ提唱セル國際通商上ノ無差別待遇原則遵守ニ付テハ本

外
務
省

S 1.1.3.1-1

1654

243

原則ノ世界各國ニ行ハレシコトヲ希望シ且其ノ實現ニ順應シテ
之ヲ支那ヲモ含ム太平洋地域ニ適用スル様努力スヘキ旨ヲ回答
シ支那ニ於ケル第三國ノ公正ナル經濟活動ハ何等之ヲ排除スル
モノニ非ラサルコトヲ闡明セルカ更ニ一定條件ノ下ニ佛領印度
支那ヨリノ撤兵ヲモ確約シ又情勢緩和ニ資スルカ爲ニ進テ先ツ

外
務
省

S 1.1.3.1-1

1655

244

南部佛印撤兵ヲ提議スル等極力妥協ノ精神ヲ發揮セルハ合衆國
政府ノ諒解スル所ナリト信ス

然ルニ合衆國政府ハ其屢次ノ提案ニ於テ時ニ帝國政府ノ主張ヲ
理解スルカ如キ態度ニ出テタルモ結局何等實質上之ヲ認ムルニ
至ラス却テ新タル要求ヲ追加スルカ或ハ帝國政府ニ對シ爲シ

外務省

245

6 1.1.3.1-1 1656

タル既往ノ言明ヲ撤回スル等何等交渉成立促進ニ資スル所ナク

徒ニ交渉ヲ遲延セシメタルハ帝國政府ノ理解スル能ハサル所ナ
ルカ特ニ左記諸點ニ付テハ合衆國政府ノ注意ヲ喚起セサルヲ得
サル次第ナリ

外務省

246

6 1.1.3.1-1 1657

帝國政府ノ對米通牒覺書

一、帝國政府ハ「アメリカ」合衆國政府トノ共同ノ努力ヲ依リ
カ太平洋地域ニ於ケル平和ヲ確立及保持ノ爲有效ナル貢獻ヲ爲
スコト並ニ兩國間ニ速ニ友好的諒解ヲ遂クルコトニ依リ世界平
和ノ招來ニ努ムセントスル眞摯ナル希望ニ促サレ本年四月以來「ア

外務省

日本標準規格B5) 6 1.1.3.1-1

1658

247

「アメリカ」合衆國トノ間ニ兩國間國交ノ調整増進及太平洋地域安

定ニ關シ最モ熱意アル交渉ヲ繼續シ來リタリ而シテ帝國政府ハ

去ル十二月二十六日合衆國政府ヨリ在「ワシントン」帝國大使

ニ手交セラレタル「オーラル」及同附屬文書ニ對シ慎重ナル檢

討ヲ爲シ且過去八月間本件交渉ヲ通シ合衆國政府ノ堅

外務省

日本標準規格B5) 6 1.1.3.1-1

1659

248

外務省

ノ所ヲ得シ^七メントスルハ帝國不動ノ國是ニシテ列國ト友誼ヲ敦クシ之カ實現ヲ圖ルハ帝國力以テ國交ノ要義トナス所ナリ錢ニ
 中華民國ハ帝國ノ眞意ヲ解セス不幸ニシテ支那事變ノ發生ヲ見ルニ至レルモ帝國ハ速ニ禍亂ヲ^然立シ平和克服ノ方途ヲ講スル
 ト共ニ歐洲ノ戰果ノ東亞ニ波及スルヲ防止センカ爲終^始最^終全ノ

(日本標準規格B5)

S 1.7.3.1-1

1661

250

外務省

持セル主張^法此間合衆國ノ帝國ニ對シ執レル措置及行動ニ付深甚周到ナル考慮ヲ加ヘタル結果茲ニ帝國政府ハ率直ニ其ノ所信ヲ開陳^ニシ以テ今后交渉ヲ繼續スルモ太平洋地域安定ニ何等奇異ナルモノナラサル所以ヲ合衆國政府ニ通告スルノ光榮ヲ有ス
 ニ東亞ノ安定ヲ確保シ世界ノ平和ヲ促進シ以テ^美蘭邦ヲシテ各々其

(日本標準規格B5)

S 1.7.3.1-1

1660

249

努力ヲ致シ來レリ

然ルニ「アメリカ」合衆國及英帝國ハ帝國ノ真意ヲ理解セズ徒

ニ蔣政權ノ言辭ニ遵ハサレ東亞ノ現實ノ事態ヲ無視シテ自ラ

定メ自ラ以テ是ナリトスル原則ニ拘泥スルノ結果政治ニ軍事ニ

將又經濟ニ凡有手段ヲ竭シテ支那事變ヲ終結ヲ防碍シ東亞和平

外務省

(日本標準規格B5)
S 1.1.3.1-1

1662

251

ニ對スル帝國ノ建設的努力ヲ控制シ進メテ或ハ蘭領印度ヲ牽制

シ或ハ佛領印度ヲ脅威シ帝國ト此等諸地域トノ間ニ共榮ノ關係

ヲ形成セントスル自然的要求ヲ阻止セリ更ニ帝國カ佛國

政府トノ協定ニ基キ佛領印度ノ共同利益擁護ノ爲共同防衛ノ

措置ヲ講スルヤ合衆國政府ハ先ツ資産凍結令ヲ實施シテ帝國ト

外務省

(日本標準規格B5)
S 1.1.3.1-1

1663

252

ノ經濟斷交ヲ敢テシ英帝國亦之ニ追隨シ如實ニ敵對的態度ヲ示
シ帝國ノ存立自体ヲ危殆ナラシムルカ如キ態勢ヲ執ルニ至レリ

253

（日本標準規格B5）
8 1.1.3.1 -1

1664

外務省

右ニシテ
三帝國政府ノ念願スル所ハ速ニ日支間ニ全面和平ヲ招來シテ太平洋

地域ノ安定ヲ計リ以テ全人類ニ戰禍ノ及フカ如キ悲惨ナル事態

ノ發生スルヲ防止セントスルニ在リ此故ニ先ツ合衆國政府トノ

間ニ太平洋地域安定ニ關スル理解ニ到達スルノ必要ヲ認メ本年

四月以來最も熱心且眞摯互讓ノ精神ニ依リ交渉ニ當リ事態ノ匡

外務省

（日本標準規格B5）
8 1.1.3.1 -1

1665

254

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

正ニ是レ努メ來レルカ帝國政府ト本年八月事態ノ急速收拾ノ爲
帝國總理大臣ト合衆國大統領ノ會見ヲ提議セリ蓋シ當時繼
續セラレタル商議ハ先ツ之カ妥結ヲ俟チ然ル後^{日本}帝國ト合衆國
兩首腦者間ニ之ヲ確認セントスル極メテ豫備的且非公式ノモノ
ニシテ斯ル^{方針}進^行ハ急激ナル進展ヲ爲シツツアリ且或ハ不測ノ

外務省

（日本標準規格B5）
S 1.7.3.1-1

1666

255

事態ヲ惹起スルノ虞アリシ當時ノ時局ニ適合セス先ツ兩首腦者
會見シ大局的見地ヨリ兩國間ニ存在スル太平洋全般ニ亘ル重要
問題ヲ誠意ヲ披瀝シテ討議検討スルコトコソ時局救済ノ緊要事
ナリト認メタルニ因ルモノナルヨトハ當時ノ帝國總理大臣近衛
公爵ヨリ^{ワシントン}合衆國大統領ニ致サレタル「メッセージ」ニ明カニセ

外務省

（日本標準規格B5）
S 1.7.3.1-1

1667

256

ル所ナリ然ルニ合衆國政府ハ右帝國政府ノ申入レヲ單ニ主義上
贊同ヲ與ヘタルノミニテ之カ實行ハ依然兩國間重要問題ノ意見
一致ノ所トスヘシト主張シテ讓ラス遷延時ヲ重ネ遂ニ今日ニ至
レハ帝國政府ノ願ミテ深ク遺憾トスル所ナリ

外務省

日本標準規格B5) 6.1.1.3.1-1

1668

257

四、惟フニ本年四月交渉開始以來今日迄正ニ八月此間帝國政府ハ專
ラ太平洋地域ニ於ケル平和安定急速實現ヲ願念シ公正且謙抑ノ
態度ヲ以テ交渉促進ニ努メ帝國ノ中華民國トノ間ニ全面和平招
來セントスル熱意ト東亞新秩序建設ニ關スル平和的意圖ヲ示ス
ルト共ニ交渉上重要事項タリシ支那問題ニ付テハ其ノ和平大綱

外務省

日本標準規格B5) 6.1.1.3.1-1

1669

258

ナリト信ス

然ルニ合衆國政府ハ四月、六月、十月、十一月ニ亘リ幾度カ提

ニ行ハルル様努力スヘキ旨茲支那ニ於ケル第三國人ノ公正ナル

經濟活動ヲ何等排除スルモノニ非ルコトヲ闡示スル等幾度カ難

キラ忍ンテ歩々審リテ敢オシタルハ合衆國政府ノ諒承スル所

ナリト信ス

然ルニ合衆國政府ハ四月、六月、十月、十一月ニ亘リ幾度カ提

外務省

(日本標準規格B5)
S 1.1.3.1-1

1671

260

ヲ提示シテ事變拾收ニ關シテハ有央以來未タ嘗テ見サル寛裕ノ

態度ヲ歐洲戦争ニ付テハ其ノ禍亂ノ擴大防止ニ在ル點ヲ率直ニ

説明シ合衆國政府ノ提唱セル國際通商上ノ無差別待遇ヲ先ツ太

平洋全域ニ適用セントスル點ニ付テハ進ンテ本原則ノ世界各國

ニ行ハレンコトヲ希冀シ且是ニ順應シテ支那ヲ含ム太平洋地域

ヲ提示シテ事變拾收ニ關シテハ有央以來未タ嘗テ見サル寛裕ノ

態度ヲ歐洲戦争ニ付テハ其ノ禍亂ノ擴大防止ニ在ル點ヲ率直ニ

説明シ合衆國政府ノ提唱セル國際通商上ノ無差別待遇ヲ先ツ太

平洋全域ニ適用セントスル點ニ付テハ進ンテ本原則ノ世界各國

ニ行ハレンコトヲ希冀シ且是ニ順應シテ支那ヲ含ム太平洋地域

外務省

(日本標準規格B5)
S 1.1.3.1-1

1670

259

外務省

テハ特ニ合衆國政府ノ注意ヲ喚起セサルヲ得サル次第ナリ

日本標準規格B5
S 1.1.3.1 -1

1673

262

外務省

カ或ハ既提案列ハ移民法解決事項ノ如キヲ撤回シテ帝國政府ニ
 對シ與ヤタル審議ヲ取捕ス等何等交渉成立促進ニ資スル所ナ
 徳ラニ交渉ヲ遂行セルニ
 リンハ帝國政府ノ理解スル能ハサル所ナルカ特ニ左記諸點ニ付

日本標準規格B5
S 1.1.3.1 -1

1672

261

案ヲ爲シタルニモ不拘此間帝國政府ノ要求ニ對シテ一歩ノ歩
 ニ出ラザルモ經商官紳上何等モセテ強ルシキラス
 リキ敢テセサルノミナラス提案ノ却度新タル要求ヲ追加スル
 却部

(一) 合衆國政府ハ自國キ繁榮乃至現狀維持ノ爲ニ其ノ自ラ創造シ

又ハ自ラ從來主張セル原則~~ニ~~採擇ラ帝國政府ニ強要

外~~ト~~依リ世界平和安定ヲ期シ得ルモノヲ用スル處凡ソ

世界ノ平和ヲ安定ヲ招來セントセハ各國ノ現實ノ事態ヲ

認識シ且相手國ノ立場ト意見ニ同情ト理解ヲ持チツツ共通

世界平和

自ラ

外務省

(日本標準規格B5) S 1.1.3.1-1

1674

263

現~~實~~ニ則シタル方途ヲ~~兼~~用スルコトニヨリテノミ~~ハ~~具

現シ得ルモノニシテ一國獨~~自~~ノ意見ヲ以テ相手國ヲ兼~~用~~シテ

觀センスルカ如キ態度ハ平和ヲ擾亂シ~~自~~ノ増進ヲ阻害スル

モノナルコトヲ篤ト留意セラレ~~ン~~コトヲ希望シテ止マテ

(二) 合衆國政府ハ其ノ自己ノ主張ト理念トニ~~自~~結果意識的

王~~室~~~~の~~方途ヲ兼用スルコトニヨリテノミハ具

自ラ

自ラ

外務省

(日本標準規格B5) S 1.1.3.1-1 1675

264

外務省

安定ノ基礎ヲ築カントスル幾多原則的主張ト全然實權背馳ス
 ルモノナルコトニ付深甚ノ考慮ヲ加ヘテ之ヲ廢シ

〔日本標準規格B5〕

6.1.1.3.1-1

1677

266

外務省

無意識的力地ニ角歐洲戰爭擴大滲戰ヲ企圖シツツアリト謂ハ
 サルヲ得ス即太平洋地域安定ヲ計ルコトニ因リ自國ノ背後ヲ
 安カラシメ他方ニ接テ歐洲新秩序建設ニ邁進スル
 獨逸國伊太利國其ノ他ノ諸國ニ對シ自衛權ノ名目ノ下ニ進シ
 テ攻撃ヲ加ヘントスルハ太平洋地域ニ平和的手段ニ依リテ

〔日本標準規格B5〕

6.1.1.3.1-1

1676

265

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

引シテ經濟斷交ヲ敢テ帝國ノ生存權ヲ脅カシツツ何等願ル所
 無キハ抑々如何ナル原則ニ依リ之ヲ理由ツケントスルモノナ
 ルヤ

④合衆國政府自ら主張スル諸原則ヲ米洲大陸及歐洲大陸ニ適用
 スルニ先チ其ノ現實事態カ合衆國ト全然異リ且特施ノ情勢ニ

外務省

CH 本標準規格 B5
 S 1.1.3.1-1

1679

268

③合衆國政府ハ其ノ堅持スル主張ニ於テ武力ニ依ル國際關係處
 理ヲ排除シツツ一方經濟力ニ依ル壓迫カ國ニ依リテハ武力以
 上ノ苦痛タルコトヲ全然忘却セルモノト斷セサルヲ爲ス彙ニ

帝國政府カ佛國政府トノ協定ニ依リ共同防衛ノ爲メ佛領印度
 ニ皇軍ヲ進出セシムルヤ合衆國政府ハ英帝國及蘭領印度ヲ誘

外務省

CH 本標準規格 B5
 S 1.1.3.1-1

1678

267

在ル太平洋地域ニノミ直ニ適用センコトヲ合衆國政府ノ眞意
那邊ニ在ルヤ疑ハサル得ス凡ソ自ラ)創造シ自ラ是ナリト信
スル原則ヲ自ラ行ヒ得ル地域ニ先ツ行フコトヲ敢テセス

外務省

269

(日本標準規格B5)
S 1.7.3.1-1

1680

自國ト全然情態ヲ異ニスル地域ニ適用セントスルコトノ不可

能ナルハ古來歴史ノ證明スル所ニシテ是ヲ以テ架空の原則ト

呼ハルルモ致方ナカルヘシ

五合衆國政府ノ提案ハ太平洋地域ニ對シテ英帝國其ノ他ノ諸國
ヲ誘引シ漸次此等地域ニ對シ國際的共同管理ノ素地ヲ作ラン

外務省

270

(日本標準規格B5)
S 1.7.3.1-1

1681

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

トスルモノト見ルノ外無ク東亞諸國カ過去百有余年ニ亘リ歐
 米諸國ノ支配下ニ置カレ^{歐米諸國}米諸國繁榮ノ犠牲タルニ甘ンセサ
 ルヲ得サリシ歴史的事實ニ鑑^鑑帝^帝國^國政府^{政府}各國民ヲシテ各其ノ所
 ラ得^セシメントスル新秩序建設ノ根本國策ヲ真正面ヨリ打破ス
 ルモノニシテ帝國政府ノ斷シテ客認スル能ハサル所ナリ

(日本標準規格B5) S 1.1.3.1-1 1682

271

外務省

内合衆國政府カ四月提案以來帝國ト中華民國トノ和平成立ヲ慾
 願^願且南京國民政府ト蔣政權トノ合流ヲ容認シ^作テ^テ最後ノ十
 一月二十六日案ニ於テ獨リ重慶政權ノ^{支持}ヲ^セヨ^トラ^聲
 明^明南京政府ヲ全然否認シ去ラントスル態度ニ出テタル當
 初ノ^提言^言ヲ根底ヨリ覆^スシ^テ日支和平完成ニ關スル帝國政府ノ^提議^議

(日本標準規格B5) S 1.1.3.1-1 1683

272

外務省

外務省

帝國政府ノ最モ奇怪ニ感セサルヲ得サル所ナリ

(日本標準規格B5)

S 1.1.3.1-1

1685

274

外務省

身ノ努力ヲ阻止スルモノニシテ右ハ難ニ帝國政府カ最后ノ安
 協案トシテ提示セル中ニ包含セララルル日支和平努力ヲ妨クル
 事
 如キ一切ノ行動ニ出テサルヘントノ要求ヲ拒否シタルコト
 行ハレニテ其ノ事
 ト共ニ合衆國政府カ日支間ニ平常常狀ノ復歸スルコトニ付何
 等ノ誠意ト好意ヲ有セサルコトヲ證明スルニ足ル事實ニシテ

(日本標準規格B5)

S 1.1.3.1-1

1684

273

五要之合衆國政府ハ今次交渉ニ於テ終始自國ヲ中心トシ自ラ創造
 シ且主張シ來レル理念ト原則トニ膠着シテ東亞ニ於ケル現實ヲ
 没却シテ顧ミス八月ニ勿トスル長日月ヲ通シ殆ト其ノ原案トモ
 謂フヘキ當初ノ主張ヲ堅持シテ一歩モ退カス帝國カ隱忍自重難
 キヲ忍ンテ幾多妥協的態度ニ出テタルニモ不拘一方ニ於テ英帝

外務省

(日本標準規格B5) 6 1.1.3.1-1

1686

275

國及蘭領印度及蔴政權ヲ誘引シテ帝國ニ對シ武力的經濟的壓迫
 脅威ヲ擅ニシツツ帝國ノ公正ナル主張ニ耳ヲ籍スコト無キノミ
 ナラス却テ益々策應シテ密々帝國ニ對スル挑戰的行爲ニ出ツル
 東亞ノ平和能ク保テられ東亞ノ利益ニ於テ美書ノ利益ヲ極大
 ニ至レリ惟フニ合衆國政府ノ意圖ハ帝國政府不動ノ國是タル東
 セントスルモノシラシム

外務省

(日本標準規格B5) 6 1.1.3.1-1

1687

276

自ラ進シテ大東亞ノ覇者タラントスルモノナリト謂フヘク右ハ

十一月二十六日ノ提案ニ依リ益々明瞭トナレリ

外務省

(日本標準規格B5)

S 1.1.3.1-1

1688

277

斯クテ合衆國政府ト相謀相携ヘテ先ツ太平洋ノ平和ヲ維持確立

セントスル帝國政府ノ希望ト方途トハ遂ニ全ク失ハレ茲ニ帝國

政府ハ遺憾乍ラ合衆國政府ハ本件交渉ニ一片ノ誠意ノ認ムヘキ

モノナク從テ今后交渉ヲ繼續スルモ東亞ノ安定ニ何等寄與スル

モノナラサルヲ認メ交渉ヲ打切ルノ已ム無キニ至レルコト

外務省

(日本標準規格B5)

S 1.1.3.1-1

1689

278

帝國政府ハアメリカ合衆國政府ト共同ノ努力
 カシ通シ兩國カ太平洋地域ニ於テ平和ノ
 樹立及保持ノ為有効ナル貢獻ヲ為ス下茲ニ
 兩國同ニ速ニ友好的條約ヲ遂クル事ニ依リ
 世界ノ平和ノ到来ニ資セントスル共ニ努ムル事
 也ニ希望サレ本年四月以來アメリカ合衆國ト
 同ニ兩國同國交ノ親善増進及太平洋地域
 安定ニ関シ且無^レ懸念^ニ支障ヲ懸^レル事

外務省

帝國政府ノ対米通牒ニ付

合衆國政府ニ通告スルト共ニ今後發生スヘキ一切ノ事態ニ付テ
 ハ合衆國政府ニ於テ其ノ責ニ任スヘキモノナル旨合衆國政府ニ
 厳書ニ通告スルノ光榮ヲ有ス

外務省

3

S 1.1.3.1-1

1693

光宗ヲ有ス
 元幕大平洋地城出之、何等密の與スル既ノ
 ナラサル此ノ地ヲ南合衆國政府ニ進出スルノ

外務省

282

2

S 1.1.3.1-1

1692

リタリ而シテ、嘉年國政府ハ去ル十一月二十六日
 合衆國政府ヨリ在ワシントンニ嘉年國大使ニ
 手交セラレタルオラージ及同附屬の書ニ存シ候
 重ナル於付ラるニ且過去七月有餘ニ亘ル本
 件交渉ヲ通シ合衆國政府、堅執セル
 主張及第廿百合衆國ノ帝國ニ所シ執レル
 措置及行動ニ付深甚同利ナル事ヲ認ムラ
 加ハラン結果、茲ニ帝國政府ハ其ノ平直ニ其
 ノ所信ヲ同陳シ此ヲ今後交渉ヲ繼續スル

外務省

281

東三ノ海及スルヲ防止セシカガ務ルル品金ノ
 形克腹ノ方途ヲ辨スルト共ニ歐洲ノ敗果ノ
 勢カラ返シ来レリ
 然レニ其時アメリカ合衆國及美帝國ハ率
 一其意ヲ理解セズ能ラニ持政者ノ善辯ニ遣ハシ
 國ノ素因ヲ辨解シ其ノ利己的目的ヲ為ス

外務省

見レニ至レルニハ帝國ハ道ニ沿ルテ設立シ平
 義トナス所ナリ異業ニ中華民国ハ帝國ノ
 其意ヲ解セズ不幸ニテ支那事變ノ後先ヲ
 此テ其和ヲシテ各ニ其ノ所ヲ得セシメントスルハ
 帝國ハ初ノ國是ニシテ列國ト友誼ヲ敦ク
 此力カ実現ヲ圖ルハ帝國力以テ國交ノ善

外務省

印度ヲ脅威シ帝國ト平等協定域トノ事ニ
 其業ノ關係ヲ形セシメタル自然の系本ヲ
 併國政府ト協定ニ從テ
 阻止セリ更ニ帝國九併領仰交ト共同所
 益擁護ノ為共同防衛ノ措置ヲ採ルルヤ
 今衆國政府ハ先シ經濟斷交ヲ敢テシ
 支那清國令ヲ實施シテ帝國トノ

外務省

東三和年ニ對スル帝國ノ建設的勞力ヲ控
 制シ或ハ蘭領印度ヲ專制シ或ハ併領
 領ヲ有シ總シテ支那專權ノ移轉ヲ妨礙シ
 全用ニシテ政治ノ軍事ニ向テ經濟ニ力ヲ注
 ナリハスル系列ニ拘限スルノ結果
 平等協定ニ對シテ帝國ノ國力ヲ弱化セシメテ
 領土ノ擴張ヲ妨礙シテ支那專權ノ移轉ヲ妨礙シ

外務省

9

S 1.1.3.1-1 1699

三

此解ニ到達スルハ他島ヲ恐メ本年四月迄
 今英國領土ノ同ニ太平洋地域有之ニ當リ
 發生スルヲ防止セントスルニ在リ此故ニ先ツ
 全人歐ニ戦艦ノ及ツカカキ其際ナル事
 平ヲ相率シ太平洋地域ノ由安立ヲ行リ此ヲ
 帝國政府ノ念執スル所ハ速ニ日支兩國
 全領和

288

外務省

8

S 1.1.3.1-1 1698

美帝國亦○此ニ追隨スルニ非キ其ノ如實ニ故
 我の態度ヲ平ニ帝國ノ有立自體ヲ危殆
 ナラシムルカ如キ態度ヲ執ルニ在リ

287

外務省

此書之旨意其大要則在於
 各國之利益而無偏袒之意也
 故其言強權的且其言亦不一
 而此中其言其大要則在於
 各國之利益而無偏袒之意也
 故其言強權的且其言亦不一

此書之旨意其大要則在於
 各國之利益而無偏袒之意也
 故其言強權的且其言亦不一
 而此中其言其大要則在於
 各國之利益而無偏袒之意也
 故其言強權的且其言亦不一

19

S 1.1.3.1-1

1703

二主交上誓同ヲ其ノ一タルニシテ其カ莫クハ
 合衆國政府ハ右帝國政府ノ申入レヲ單
 ニ改サレタルマツセイニ明カニ此ノナリ然ルニ
 務麗大臣近衛公爲ヨリ合衆國大使飲
 酒ノ業ヲ行ハルニ其ノ旨ハ帝國政府
 重ナルト云フマシテ固クモナ
 三セ

重ナルト云フマシテ固クモナ

292

外務省

19

S 1.1.3.1-1

1702

進展ヲ爲シテ了且或ハ不測ノ事態ヲ憂
 甚キルルノ虞ハナシト云フ其ノ旨ハ
 命セズ先ノ兩帝修好ヲ會見シ大勸的見
 也ヨリ兩國百ニ有在スル太平洋全般ニ
 重要問題ヲ付於テ付スルニトス月時局故
 誠ニ其ノ指標ニシテ

誠ニ其ノ指標ニシテ

291

外務省

15

S 1.1.3.1-1

1705

交渉 駐米 邦交 邦交 邦交
 二努力 多 邦交 一
 外務省
 現 邦交 公 且 備 邦 一 然 復 邦 一
 太平洋 地 域 二 於 ケル 平 和 平 安 之 由 急 速 策
 日 迄 四 月 廿 四 日 有 一 月 廿 四 日 帝 國 政 府 ハ 專 門
 惟 二 邦 交 政 務 部 四 月 交 渉 局 始 末 今
 年 年
 17

294

14

S 1.1.3.1-1

1704

情 勢
 國 政 府 ノ 深 シ 遠 信 ト スル 似 ナリ
 秋 二 行
 他 ト スル 二 行 止 限 シ 二 途 二 今 日 二 至 シ 二 一 年
 懷 々 ス 遷 延 好 二 意 二 國 際
 終 止 兩 國 間 重 要 回 題 ノ 意 見 一 政 務 一
 外務省

293

17
 争に付テハ其ノ紛糾ノ拡大防止ニ在リ莫クモ
 従以テハ奥國政府ノ提議ニ
 非シ爾國降通意ニ付テハ進ニテハ世界
 上ノ善美列強果如クテ太平洋地域全體ニ適用セシムル
 各國ニ對シテ善美列強別カ行ハレシメトシテ提議
 事待ミ且
 山也ニ以テ應シテ支那ノ利益カ他ハレルカ一
 努力ナクテ吾等支那ノ利益ハ予三國ノ人トシテ強
 國ノ利益トシテ等儀度カ歩ニ安アリ事ナラシ
 外務省

16
 秩序建設ニ関スル平和的意圖ヲ顯示
 二全面和平ヲ求メセトスル熱意由ト東三粉
 形秩序支那建設莫爾權中華民國ト自
 上重慶軍機
 スルト共ニ交渉推集カリシ支那軍支那同
 提テシテ軍事受取ルニ関スルハ有以テ未タ考テ
 題ニ付テハ其ノ和平大雅ヲ以テ示シ則
 外務省

19

S 1.1.3.1-1

1709

サレドナールカ特ニ九記傳吳ニ在ルハ外務省

ナカリシハ帝國政府ハ理解スルルハ

ス等ノ種々ノ實ニ交渉ニ在リテ極意ノ極

リ本邦ニ在ルニ在リ共ニ一ニ以テ客思ヲ取清

或ハ解理ノ案ヲ以テ俄國シテ帝國政府

能ハ居民法兩決案ノ如キヲ

帝國政府ハ特ニ其ノ事ニ對シテ極意ノ極

298

18

S 1.1.3.1-1

1708

ニ且リ度度力提業ヲ為シタルニモ子物トモ

帝國政府ハ其ノ如キ事ニ對シテ

漸止ノ度ニ先ノ歩守リ以テ敬テセサル

トナラス事ノ部度形々ニ其ノ事ヲ追加

然レニ合衆國政府ハ四月、六月、十月、十一月

ナリト位ス

教テシタルハ合衆國政府ハ其ノ事ヲ

當ノ事ニ對シ

297

1711 S 1.1.3.1-1 21

現案ニ別ニアル方席
 其見ニ用スルコトニヨリテ之ヲ
 具現シ
 非但シ得ルニ限ラズニテ
 國々各自ノ意見ヲ
 比テ相争國ヲ裁判シ支配スルカ如キ事ニ
 在テ其國々ノ意見ヲ用スルコトハ
 平和ヲ維持シ

300

1710 S 1.1.3.1-1 20

政府ノ注意ヲ喚起セサルニ次チ
 合衆國政府ハ其ノ自ラ創造シ又ハ自ラ位
 自國ノ利益ニ非ズル乃至其地ヲ他國ノ為ニ
 未だ流セル原則又ハ諸國ノ協定ヲ
 世界ニ強要スルコトニ依リテ平和ヲ安立ラ如ク
 爲ルニト思フスル處凡ソ世界ノ平和ヲ

299

22

S 1.1.3.1-1

1713

自国、地盤をカラムシメ、
 昨、戦争に際し自国ノ地位を強化し、英國
 ヲ援ケテ、西、新、鉄、道、一、建設ニ、邁、進、シ、テ、
 國、伊、古、新、國、世、他、
 下、地、盤、其、他、諸、國、ヲ、擠、滅、セ、シ、メ、ト、ス、ル、
 二、連、年、對、シ、自、衛、お、右、目、下、之、道、ヲ、
 政、策、ヲ、カ、シ、メ、ト、ス、ル、ハ、
 太、平、洋、地、域、ニ、平、和、を、定、ム、基、礎、ヲ、カ、キ、ト、ス、
 政、策、別、的、
 以、此、院、ト、全、然、所、推、ス、ル、事、ト、モ、モ、
 外、務、省

22

S 1.1.3.1-1

1712

混、亂、ヲ、蒙、シ、自、國、ノ、地、盤、を、
 昨、年、之、結果、歐、州、戰、争、ニ、
 二、合、衆、國、政、府、ハ、甚、ノ、自、己、ノ、主、張、ト、
 世、事、也、
 民、權、ノ、増、進、ヲ、阻、害、ス、ル、事、
 當、事、大、ト、半、セ、ラ、レ、ニ、ユ、ト、
 外、務、省

25

S 1.1.3.1-1

1715

三 皇軍ヲ進出セシムルハ
 帝國及南洋印度洋諸島ヲ侵略シテ經濟對立
 ヲ激ラセテ自由貿易權ヲ侵害スルハ帝國
 ノ生存ニおツカサシムルハ何等ノ利益ハ得ルコト
 無キ事
 此等ノ害ヲ避クルニ爲メハ
 自衛力ヲ備ヘテ之ヲ排除スルニモシヤ
 今 皇國政府 主張スル諸原則及基
 本方針

外務省

304

24

S 1.1.3.1-1

1714

三 合衆國政府ハ其ノ^{主權}主張スルニ依リテ
 カニ依リ國際法條ヲ抽換シテ一方侵略
 カニ依リ國際法條ヲ抽換シテ一方侵略
 カニ依リ國際法條ヲ抽換シテ一方侵略
 痛クシテ^{皇國政府}カニ依リテ其ノ^{主權}主張スルニ依リテ
 ト一協定ニ依リ共同防衛^{條約}ヲ締結スルニ依リ
 金セシムル事^ハセシムル事^ハト斷ヤサルヲ^ハ望ム
 皇國政府カニ依リテ其ノ^{主權}主張スルニ依リテ
 痛クシテ^{皇國政府}カニ依リテ其ノ^{主權}主張スルニ依リテ

外務省

303

27

S 1.1.3.1-1

1717

凡ソ自ラ命達シ自ラ是方ト信スル系列ヲ自ラ
 得ル其意ヲ書列す
 事業ノ進取スル此中宜の原則ヲ大率
 行ヒタル地域ニ書ク行フコトヲ記セス其書
 洋地域ニ進取進取セトシ其中国諸島ハ決
 非進取自宜ト金然情勢ニ因テタル地域ニ進
 取非利物業ハ勿論也ラ擧ルタル事
 用セントスルカキキトノ不可缺ナルハ古来一
 得タル事也
 一 南洋各地ニ進取進取セトシ其中国諸島ハ決
 非進取自宜ト金然情勢ニ因テタル地域ニ進
 取非利物業ハ勿論也ラ擧ルタル事
 用セントスルカキキトノ不可缺ナルハ古来一
 得タル事也

306

外務省

26

S 1.1.3.1-1

1716

凡ソ自ラ命達シ自ラ是方ト信スル系列ヲ自ラ
 得ル其意ヲ書列す
 事業ノ進取スル此中宜の原則ヲ大率
 行ヒタル地域ニ書ク行フコトヲ記セス其書
 洋地域ニ進取進取セトシ其中国諸島ハ決
 非進取自宜ト金然情勢ニ因テタル地域ニ進
 取非利物業ハ勿論也ラ擧ルタル事
 用セントスルカキキトノ不可缺ナルハ古来一
 得タル事也
 一 南洋各地ニ進取進取セトシ其中国諸島ハ決
 非進取自宜ト金然情勢ニ因テタル地域ニ進
 取非利物業ハ勿論也ラ擧ルタル事
 用セントスルカキキトノ不可缺ナルハ古来一
 得タル事也

305

外務省

英ノ核抱タルニ甘ニセサルヲハサリシ集積ニ
 中ニモ其ノ中ニ帝國政智各國民ヲコシテ
 各其ノ所ニ付シテシテトスル新秩序ノ建
 設ノ根本國策ヲ其ニ面ヨリ打拂スルニ
 ノニシテ帝國政府ノ新シテ其ニ付
 統リヤル所ナリ

外務省

聯合帝國政府ノ提案ハ太平洋地域ニ於
 シテ在帝國英國ト其同ニナリ其國策
 府ノ平和的発展ヲ俟テ新秩序建設ヲ
 維持シテ其間其同管理ノ素地ヲ作
 トスルニト見ルノ外其ノ東ニ德國カ
 余年ニ置リ其未ニ其國ノ下ニ置カレ
 牛華地域ノ其同支配者タルトスル
 其ノ他諸國ヲ誘引シ
 其間其同管理ノ素地ヲ作
 其ノ他諸國ヲ誘引シ

外務省

31

S 1.1.3.1-1

1721

日交
 西後シキルニシテ其ノ情状亦ハ
 一軍身ノ力ヲ備ヘシテ其ノ國
 完全ヲ阻止スルニシテ其ノ國
 一カカカ
 海協定トシテ其ノ中ニ包含セラルル日交
 一カノ行初ニシテ其ノ中ニ包含セラルル日交
 合衆國政府力自交ヨリ平定ノ復原スルコトニ付
 本ノ意ヲ通セサルハ其ノ不承ニテ其ノ意ヲ通セサルハ
 何等ノ保護ト收メラハ有セサルコトヲ認明スルニ其ノ意
 ニシテ其ノ意ヲ通セサルハ其ノ不承ニテ其ノ意ヲ通セサルハ
 其ノ意ヲ通セサルハ其ノ不承ニテ其ノ意ヲ通セサルハ

310

30

S 1.1.3.1-1

1720

六、合衆國政府力四月提議以來、日交
 日交
 上中華、民國上、和平成立ヲ從テ通シ
 三月廿九日(廿一日)某ニ於テ國民
 力金並ニ其ノ意ヲ通セサルハ其ノ不承ニテ其ノ意ヲ通セサルハ
 己ノ意ヲ通セサルハ其ノ不承ニテ其ノ意ヲ通セサルハ
 其ノ意ヲ通セサルハ其ノ不承ニテ其ノ意ヲ通セサルハ

309

其ノ系系トシテ階ヲ(キ)當初ノ主権ノ國權ニシテ
 一歩元退カス帝國カ隱忍自衛地キヲ至ニシテ
 最多最協的然否ニ出ラタレニモ協約ニシテ
 天協同的協約ヲ示スル事ヲ一方ニ於テ英帝
 國及荷蘭印度及荷政板ヲ誘引シテ帝國ニ

外務省

其ノ系系トシテ階ヲ(キ)當初ノ主権ノ國權ニシテ
 一歩元退カス帝國カ隱忍自衛地キヲ至ニシテ
 最多最協的然否ニ出ラタレニモ協約ニシテ
 天協同的協約ヲ示スル事ヲ一方ニ於テ英帝
 國及荷蘭印度及荷政板ヲ誘引シテ帝國ニ

外務省

惟フニ合衆國政府ノ意圖ハ聯邦主義ヲ
 有初ノ國是東亞之興隆ニ於テ
 建設ヲ妨害シテ自ラ進マテ大東亞ノ西側
 者トナレシメ
 十月二十六日ノ提議ニ依リ
 合衆國政府ト
 非利和の手段ニ依リ
 外務省

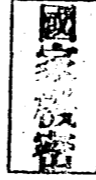
其ニ武力的経済的壓迫脅威ヲ擅ニシ
 ヲシテ其ノ地位ニ對シテ
 自國ノ公ニナル主義ニ耳
 益ニ及ビテ
 其ノ地位ニ對シテ
 其ノ地位ニ對シテ
 其ノ地位ニ對シテ

件之旨より而之立憲國政府ノ平和ニ對シテ
 力ヲ加シテ評查機關ニ不自ラ重キテ世界
 ヲ救ヒシハ瑞中ニ投セドスルニ似テ一
 片ノ海ノ下キレノ事ヲ 茲ニ帝國政府ノ忠告
 合衆國政府ハ本件交渉ニ御業成キノ海ノ下
 合衆國政府ハ本件交渉ニ御業成キノ海ノ下

外務省

二余ノ失ハレシ事ヲ救ヒテハ私ハ帝國政府
 合衆國政府ハ自ラ平和ヲ使徒ラシ
 平和ニ對シテ立憲國政府ノ平和ニ對シテ

外務省



帝國政府ノ對米通牒覺書(案)

一六一三三

一、帝國政府ハ「アメリカ」合衆國政府トノ間ニ友好的關係ヲ遂ケ
共同ノ努力ニ依リ兩國カ太平洋地域ニ於ケル平和ヲ確保シ以テ
世界平和ノ招來ニ貢獻セントスル眞摯ナル希望ニ促サレ本年四
月以來「アメリカ」合衆國トノ間ニ兩國間國交ノ調整及増進竝

外務省

S 1.1.3.1-1

1729

319

ニ太平洋地域ノ安定ニ關シ最モ熱意アル交渉ヲ繼續シ來リタル

處過去八ヶ月ニ亘ル交渉ヲ進シ合衆國政府ノ固持セル主張竝ニ

此間合衆國ノ帝國ニ對シ執レル措置行動ニ付深甚周到ナル考慮

ヲ加ヘ茲ニ率直ニ其ノ所信ヲ合衆國政府ニ開陳スルノ光榮ヲ有

ス

外務省

S 1.1.3.1-1

1730

320

ニ東亞ノ安定ヲ確保シ世界ノ平和ヲ促進シ以テ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシメントスルハ帝國不動ノ國是ナリ

中華民國ハ帝國ノ眞意ヲ解セス不幸ニシテ支那事變ノ發生ヲ見ルニ至レルモ帝國ハ速ニ禍亂ヲ裁定シ平和克服ノ方途ヲ講スルト共ニ歐洲ノ戰禍ノ東亞ニ波及スルヲ防止センカ爲終始最善ノ

外務省

S 1.1.3.1-1

1731

321

努力ヲ致シ來レリ客年九月帝國カ獨伊兩國トノ間ニ三國條約ヲ締結シタルモ亦右目的ヲ達成センカ爲ニ他ナラス

然ルニ「アメリカ」合衆國及英帝國ハ東亞ノ現實ノ事態ヲ無視シ政治ニ軍事ニ將又經濟ニ凡有手段ヲ竭シテ將政體ヲ援助シ以テ日支全面和平ノ成立ヲ妨礙シ東亞ノ安定ニ對スル帝國ノ建設

外務省

S 1.1.3.1-1

1732

322

的努力ヲ控制セルノミナラス或ハ爾領印度ヲ牽制シ或ハ佛領印
度支那ヲ脅威シ帝國ト此等諸地域トノ間ニ共存共榮ノ關係ヲ形
成セントスル自然的要)求ヲ阻止セリ更ニ帝國カ佛國トノ協定
ニ基キ佛領印度支那共同防衛ノ措置ヲ講スルヤ合衆國政府ハ先
ツ資産凍結令ヲ實施シテ帝國トノ經濟斷交ヲ敢テシ英帝國亦之

外務省

S 1.1.3.1-1

1733

323

ニ追隨シ明ニ敵對的態度ヲ示シ帝國ノ存立自體ヲ危殆ナラシム
ルカ如キ態勢ヲ執ルニ至レリ
右ニ拘ラス帝國政府ハ本年八月奉憲ノ急速收拾ノ爲帝國總理大
臣ト合衆國大統領トノ會見ヲ提議セリ蓋シ當時繼續セラレタル
商議ハ先ツ之カ妥結ヲ俟テ然ル後日米兩首腦者間ニ之ヲ確認セ

外務省

S 1.1.3.1-1

1734

324

ントスル儘メテ豫備的且非公式ノモノニシテ斯ル商議ノ方法ハ
急激ナル進展ヲ爲シツツアリ且或ハ不測ノ事態ヲ惹起スルノ虞
アリシ當時ノ時局ニ適合セス先ツ兩首腦者會見シ大局的見地ヨ
リ兩國間ニ存在スル太平洋全殺ニ亘ル重要問題ヲ誠意ヲ披瀝シ
テ討議検討スルコトコソ時局救済ノ緊要事ナリト認メタルニ因

外務省

325

S 1.1.3.1-1

1735

ルモノナルコトハ當時ノ帝國總理大臣近衛公爵ヨリ「ローズベ
ルト」合衆國大統領ニ致サレタル「メッセージ」ニ明カニセル
所ナリ然ルニ合衆國政府ハ右帝國政府ノ申入レニ主義上贊同ヲ
與ヘ乍ラ之カ實行ハ依然兩國間重要問題ノ意見一致ノ後トスヘ
シト主張シテ譲ラス遷延時ヲ重ネ遂ニ今日ニ至レルハ帝國政府

外務省

326

S 1.1.3.1-1

1736

ノ願ミテ深ク遺憾トスル所ナリ

外務省

S 1.1.3.1-1

1737

327

惟フニ交渉開始以來帝國政府ハ日支和平ヲ招來シテ平和的手段
ニ依リ東亞新秩序ヲ建設スルト共ニ歐洲戰爭ノ擴大防止ニ依リ
太平洋平和ヲ維持スル見地ヨリ專ラ公正且謙抑ノ態度ヲ以テ交
渉妥結ニ努メ交渉上重要事項タリシ支那問題ニ付テハ極メテ寬
容ナル和平大綱ヲ提示シ合衆國政府ノ提唱セル國際通商上ノ無

外務省

S 1.1.3.1-1

1738

328

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

差別待遇ヲ先ツ太平洋全域ニ適用セントスル點ニ付テハ進ンテ
本原則ノ世界各處ニ行ハレシコトヲ希望シ且其ノ實現ニ願シ
テ支那ヲ含ム太平洋地域ニ行ハルル操勞カスヘキ旨竝ニ支那ニ
於ケル第三國人ノ公正ナル經濟活動ヲ何等排除スルモノニ非ル
旨ヲ明示スル等幾度カ難キヲ忍ンテ協議ノ態度ニ出テタルハ合

外務省

S 1.1.3.1-1

1739

329

衆國政府ノ諒解スル所ナリト信ス

然ルニ合衆國政府ハ屢次ノ提案ニ於テ時ニ帝國政府ノ主張ヲ
解スルカ如キ態度ニ出テタルモ結局何等實質上之ヲ認ムルニ至
ラス提案ノ都度却テ新タル要求ヲ追加スルカ或ハ帝國政府ニ
對シ爲シタル聲明ヲ撤回スル等何等交渉成立促進ニ資スル所ナ

外務省

S 1.1.3.1-1

1740

330

ク徒ニ交渉ヲ遷延セシメタルハ帝國政府ノ理解スル能ハサル所
ナルカ特ニ左記諸點ニ付テハ合衆國政府ノ注意ヲ喚起セサルヲ
得サル次第ナリ

外務省

S 1.7.3.1-1

1741

331

(一)合衆國政府ハ世界平和ノ爲ナリトシテ自國ノ繁榮乃至現狀維
持ノ爲其ノ自ラ創造シ又ハ自ラ從來主張セル原則ノ採擇ヲ帝
國政府ニ迫レル處凡ソ世界ノ平和安定ヲ招來セントセハ各國
ノ現實ノ事態ヲ認識シ且相手國ノ立場ト意見ニ同情ト理解ト
ヲ持テツツ雙方ノ受諾シ得ヘキ方途ヲ發見シ誠實ニ之ヲ適用

外務省

S 1.7.3.1-1

1742

332

秘
録
(

スルコトニヨリテノミ具現シ得ルモノニシテ一國獨自ノ意見
ヲ相手國ニ強要スルカ如キ態度ハ平和ヲ攪亂シ福祉ノ増進ヲ
阻害スルモノナリ

(二)合衆國政府ハ其ノ自己ノ主張ト理念トニ眩惑セラレ意識的無
意識的ニ歐洲戰爭擴大ヲ企圖シツツアリト斷ハサルヲ得ス即

一方太平洋地域安定ヲ計リテ自國ノ背後ヲ安カラシメツツ他
方英帝國ヲ援ケ歐洲新秩序建設ニ邁進スル獨伊兩國ニ對シ自
衛權ノ名ノ下ニ進シテ攻撃ヲ加ヘントスルハ太平洋地域ニ平
和的手段ニ依リ安定ノ基礎ヲ築カントスル幾多原則的主張ト
全然矛盾背馳スルモノナリ

外
務
省

S 1.1.3.1-1 1743

333

外
務
省

S 1.1.3.1-1 1744

334

(三)合衆國政府ハ其ノ堅持スル主張ニ於テ武力ニ依ル國際關係
運ヲ排除シツツ一方經濟力ニ依ル壓迫カ國ニ依リテハ武力以
上ノ苦痛タルコトヲ全然忘却セルモノト斷セサルヲ冀ス
(四)合衆國政府ノ意圖ハ支那佛印ノミナラス其他東亞ノ諸地域ニ
對シ英帝國其ノ他ノ諸國ヲ誘引シ漸次此等地域ニ對シ國際的

335

1745

S 1.1.3.1-1

外務省

共同支配ノ素地ヲ作ラントスルモノト見ルノ外無キ處東亞諸
國カ過去百有餘年ニ亘リ英米兩國ノ支配下ニ現状維持ヲ強ヒ
ラレ兩國繁榮ノ犧牲タルニ甘ンセサルヲ得サリシ歴史的事實
ニ鑑ミ右ハ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシメントスル帝國ノ
根本國策ト全然背馳スルモノニシテ帝國政府ノ斷シテ容認ス

336

1746

S 1.1.3.1-1

外務省

ル能ハサル所ナリ

外務省

S 1.1.3.1-1

1747

337

(四) 合衆國政府カ四月提案ニ於テ帝國ト中華民國トノ和平成立ヲ

推進シ且南京國民政府ノ存在ヲ前提トシ帝國ト中華民國トノ

全面和平成立ヲ推進セルニ拘ラス十一月二十六日案ニ於テ重

慶政權ヲ除ク如何ナル政權ヲモ支持セサルコトヲ要求シタル

小南京政府ヲ全然否認シ去ラントスル態度ニ出テタルハ當初

外務省

S 1.1.3.1-1

1748

338

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

陸軍

ノ提言ヲ根底ヨリ覆スモノニシテ右ハ日支兩國ノ平和ニ關ス
ル努力ニ支障ヲ與フルカ如キ行動ニ出テサルヘントノ誓願取
府ノ要求ヲ拒否シテ撥擄行爲ヲ繼續スル意旨ヲ表明シタルコ
トト共ニ合衆國政府カ日支間ニ平常狀態ノ復歸スルコトヲ希
望セサルコトヲ實踐スルモノナリ

外務省

6 1.1.3.1-1 1749 339

互惟フニ合衆國政府ノ意圖ハ東亞ノ平和確立ヲ妨礙シ東亞ノ機軸
ニ於テ東西兩洋ニ亘ル英米ノ利益ヲ擁護セントスルモノニシテ
右ハ十一月二十六日ノ提案ニ依リ益々明瞭トナレリ
斯クテ日米國交ヲ調整シ合衆國政府ト相携ヘテ太平洋ノ平和ヲ
維持確立セントスル誓願政府ノ希望ト方途トハ遂ニ益ク失ハレ

外務省

6 1.1.3.1-1 1750 340

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

昭和十三年三月
外務省
シ

帝國政府ノ對米通牒覺書（案）

一六一三五

外務省

S 1.1.3.1-1

1752

342

米通牒

茲ニ帝國政府ハ遺憾ナラ合衆國政府ハ本交渉ニ一片ノ誠意ノ露
ムヘキモノナク從テ今後交渉ヲ繼續スルモ東亞ノ安定ニ何等寄
與スル所ナキモノト認メ交渉ヲ打切ルノ已ム無キニ至レルコト
竝ニ將來發生スヘキ一切ノ事象ニ付テハ合衆國政府ニ於テ其ノ
實ニ任スヘキモノナル旨合衆國政府ニ嚴肅ニ通告スルモノナリ

外務省

S 1.1.3.1-1

1751

341

帝國政府ノ對米通牒覺書(案)

一六一三五

一、帝國政府ハ「アメリカ」合衆國政府トノ間ニ友好的諒解ヲ遂ケ
 兩國共同ノ努力ニ依リ太平洋地域ニ於ケル平和ヲ確保シ以テ世
 界平和ノ招來ニ貢獻セントスル眞摯ナル希望ニ促サレ本年四月
 以來合衆國政府トノ間ニ兩國國交ノ調整増進竝ニ太平洋地域ノ
 安定ニ關シ誠意ヲ傾倒シテ交渉ヲ繼續シ來リタル處過去八ヶ月
 ニ亘ル交渉ヲ通シ合衆國政府ノ固持セル主張竝ニ此間合衆國及
 英國等ノ帝國ニ對シ執レル措置ニ付茲ニ率直ニ其ノ所信ヲ合衆
 國政府ニ開陳スルノ光榮ヲ有ス

二、東亞ノ安定ヲ確保シ世界ノ平和ニ寄與シ以テ萬邦ヲシテ各々其

外務省

S 1.1.3.1-1

1753

ノ所ヲ得セシメントスルハ帝國不動ノ國是ナリ曩ニ中華民國ハ
 帝國ノ眞意ヲ解セス不幸ニシテ支那事變ノ發生ヲ見ルニ至レル
 モ帝國ハ平和克復ノ方途ヲ講スルト共ニ戰禍ノ擴大ヲ防止セン
 カ爲終始最善ノ努力ヲ致シ來レリ客年九月帝國カ獨伊兩國トノ
 間ニ三國條約ヲ締結シタルモ亦右目的ヲ達成センカ爲ニ他ナラ
 ス

然ルニ合衆國及英帝國ハ凡有手段ヲ竭シテ重慶政權ヲ援助シテ
 日支全面和平ノ成立ヲ妨碍シ東亞ノ安定ニ對スル帝國ノ建設的
 努力ヲ控制セルノミナラス或ハ蘭領印度ヲ牽制シ或ハ佛領印度
 支那ヲ脅威シ帝國ト此等諸地域トカ相携ヘテ共榮ノ理想ヲ實現
 セントスル企圖ヲ阻碍セリ更ニ帝國カ佛國トノ間ニ締結シタル

外務省

S 1.1.3.1-1

1754

議定書ニ基キ佛領印度支那共同防衛ノ措置ヲ講スルヤ合衆國政府及英國政府ハ之ヲ以テ自國領域ニ對スル脅威ナリト曲解シ和蘭國ヲモ誘ヒ資產凍結令ヲ實施シテ帝國トノ經濟斷交ヲ敢テシ明カニ敵對的態度ヲ示スト共ニ帝國ニ對スル軍備ヲ增強シ帝國包圍ノ態勢ヲ整ヘ以テ帝國ノ存立ヲ危殆ナラシムルカ如キ情勢ヲ誘致スルニ至レリ

右ニ拘ラス帝國總理大臣ハ本年八月事態ノ急速收拾ノ爲合衆國大統領ト會見シ兩國間ニ存在スル太平洋全般ニ亘ル重要問題ヲ討議檢討センコトヲ提議セリ然ルニ合衆國政府ハ右申入レニ主義上贊同ヲ與ヘ乍ラ之カ實行ハ兩國間重要問題ニ關シ意見一致ヲ見タル後トスヘント主張シテ讓ラス

外務省

三、仍テ帝國政府ハ九月二十五日從來ノ合衆國政府ノ主張ヲモ充分考慮ノ上米國案ヲ基礎トシ之ニ帝國政府ノ主張ヲ取入レタル一案ヲ提示シ論議ヲ重ネタルカ双方ノ見解ハ容易ニ一致セサリシヲ以テ現內閣ニ於テハ從來交渉ノ主要難點タリシ諸問題ニ付帝國政府ノ主張ヲ更ニ緩和シタル修正案ヲ提示シ交渉ノ妥結ニ努メタルモ合衆國政府ハ終始當初ノ原案ヲ固執シ協調的態度ニ出テス交渉ハ依然滯滞セリ茲ニ於テ十一月二十日ニ至リ帝國政府ハ兩國々交ノ破綻ヲ回避スル爲最善ノ努力ヲ盡ス趣旨ヲ以テ樞要且緊急ノ問題ニ付公正ナル妥結ヲ圖ル爲前記提案ヲ簡單化シ

(一)兩國政府ニ於テ佛印以外ノ南東亞細亞及南太平洋地域ニ武力進出ヲ行ハサル旨ヲ確約スルコト (二)兩國政府ニ於テ蘭領印度ニ

外務省

ニ於テ日支和平ヲ妨碍セサル旨ヲ約センコトヲ求メタルカ合衆
 國政府ハ右新提案ヲ受諾スルヲ得ストナセルノミナラス援蔣行
 爲ヲ繼續スル意思ヲ表明シ次テ更ニ前記ノ言明ニ拘ラス大統領
 ノ所謂日支間和平ノ紹介ヲ行フノ時機猶熟セストテ之ヲ撤回シ
 遂ニ十一月二十六日ニ至リ偏ヘニ合衆國政府カ從來固執セル原
 則ヲ強要スルノ態度ヲ以テ帝國政府ノ主張ヲ無視セル提案ヲ爲
 スニ至リタルカ右ハ帝國政府ノ最モ遺憾トスル所ナリ

於テ其必要トスル物資ノ獲得カ保障セラルル様相互ニ協力スル
 コト(三)兩國政府ハ相互ニ通商關係ヲ資產凍結前ノ状態ニ復歸ス
 ルコト、合衆國政府ハ所要ノ石油ノ對日供給ヲ約スルコト(四)合
 衆國政府ハ日支兩國ノ和平ニ關スル努力ニ支障ヲ與フルカ如キ
 行動ニ出テサルコト(五)帝國政府ハ日支間和平成立スルカ又ハ太
 平洋地域ニ於ケル公正ナル平和確立スル上ハ現ニ佛領印度支那
 ニ派遣セラレ居ル日本軍隊ヲ撤退スヘク又本了解成立セハ現ニ
 南部佛領印度支那ニ駐屯中ノ日本軍ハ之ヲ北部佛領印度支那ニ
 移駐スルノ用意アルコト等ヲ内容トスル新提案ヲ提示シ同時ニ
 支那問題ニ付テハ合衆國大統領カ曩ニ言明シタル通り日支間和
 平ノ紹介者トナルニ異議ナキモ日支直接交渉開始ノ上ハ合衆國

ス
 然ルニ合衆國政府ハ常ニ理論ニ拘泥シ現實ヲ無視シ其抱懐スル
 非實際的の原則ヲ固執シテ何等讓歩セス徒ニ交渉ヲ遷延セシメタ
 ルハ帝國政府ノ諒解ニ苦ム所ナルカ特ニ左記諸點ニ付テハ合衆
 國政府ノ注意ヲ喚起セサルヲ得ス

四抑々本件交渉開始以來帝國政府ハ終始専ラ公正且謙抑ナル態度
 ヲ以テ銳意妥結ニ努メ屢々難キヲ忍ヒテ能フ限リノ讓歩ヲ敢テ
 シタルカ交渉上重要事項タリシ支那問題ニ關シテモ出來得ル限
 リノ協調的態度ヲ示シ又合衆國政府ノ提唱セル國際通商上ノ無
 差別待遇原則遵守ニ付テハ本原則ノ世界各國ニ行ハレンコトヲ
 希望シ且其ノ實現ニ順應シテ之ヲ支那ヲモ含ム太平洋地域ニ適
 用スル様努力スヘキ旨ヲ表明シ尙支那ニ於ケル第三國ノ公正ナ
 ル經濟活動ハ何等之レ排除スルモノニアラサルコトヲモ闡明セ
 ルカ更ニ佛領印度支那ヨリノ撤兵ニ付テモ情勢緩和ニ資スルカ
 爲前述ノ如ク南部佛印ヨリノ即時撤兵ヲ進ンテ提議スル等極力
 妥協ノ精神ヲ發揮セルハ合衆國政府ノ夙ニ諒解スル所ナリト信

(一)合衆國政府ハ世界平和ノ爲ナリト稱シテ自己ニ好都合ナル諸原則ヲ主張シ之カ採擇ヲ帝國政府ニ迫レル處世界ノ平和ハ現實ニ立脚シ且相手國ノ立場ニ理解ヲ持シ相互ニ受諾シ得ヘキ方途ヲ發見スルコトニ依リテノミ具現シ得ルモノニシテ現實ヲ無視シ一國ノ獨善的主張ヲ相手國ニ強要スルカ如キ態度ハ交渉ノ成立ヲ促進スル所以ノモノニアラス

今般合衆國政府カ日米協定ノ基礎トシテ提議セル諸原則ニ付キテハ右ノ中ニハ帝國政府トシテ趣旨ニ於テ贊同ニ吝ナラサルモノアルモ世界ノ現狀ニ鑑ミ直ニ之ヲ採擇セントスルハ架空ノ理念ニ驅ラルルモノト云フノ他ナシ

尙亦日、米、英、支、蘇、蘭、泰七國間ニ多邊的不可侵條約ヲ

外務省

締結スルノ案ノ如キモ徒ニ集團的平和機構ノ舊構想ヲ追フノ結果東亞ノ實情ト遊離セルモノナルノミナラス日獨伊三國條約ヲ有名無實ナラシムルモノナルニ依リ帝國政府ノ同意シ難キ所ナリ

(二)合衆國政府今次ノ提案中ニ「兩國政府カ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本取極ノ根本目的タル太平洋全域ノ平和確保ニ矛盾スルカ如ク解釋セラレサルコトニ付合意ス」トアルハ即合衆國カ歐洲戰爭參入ノ場合ニ於ケル帝國ノ三國條約上ノ義務履行ヲ牽制セントスル意圖ヲ以テ提案セルモノト認メラルルヲ以テ右ハ帝國政府ノ斷シテ受諾シ得サル所ナリ

由來
合衆國政府ハ其ノ自己ノ主張ト理念トニ眩惑セラレ自ラ戰爭擴

外務省

大ヲ企圖シツツアリト謂ハサルヲ得ス合衆國政府ハ一方太平洋地域ノ安定ヲ策シ自國ノ背後ヲ安固トシツツ他方英帝國ヲ援ケ歐洲新秩序建設ニ邁進スル獨伊兩國ニ對シ自衛權ノ名ノ下ニ進ンテ攻撃ヲ加ヘントスルモノナルカ右ハ太平洋地域ニ平和的手段ニ依リ安定ノ基礎ヲ築カントスル幾多ノ原則的主張ト全然矛盾背馳スルモノナリ

外務省

(三)合衆國政府ハ其ノ固持スル主張ニ於テ武力ニ依ル國際關係處理ヲ排撃シツツ一方英帝國等ト共ニ經濟力ニ依ル壓迫ヲ加ヘツツアル處斯ル壓迫ハ場合ニ依リテハ武力壓迫以上ノ非人道的行爲ニシテ國際關係處理ノ手段トシテ等シク排撃セララルヘキモノナリ

(四)合衆國政府ノ意圖ハ英帝國其ノ他ノ諸國ヲ誘引シ支那、佛領印度支那其他東亞ノ諸地域ニ對シ其從來保持セル支配的地位ヲ維持強化セントスルモノト見ルノ外無キ處東亞諸國カ過去百有餘年ニ亘リ英米ノ帝國主義的搾取政策ノ下ニ現状維持ヲ強ヒラレ兩國繁榮ノ犠牲タルニ甘ンセサルヲ得サリシ歴史的事實ニ鑑ミ右ハ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシメントスル帝

外務省

國ノ根本國策ト全然背馳スルモノニシテ帝國政府ノ斷シテ容認スル能ハサル所ナリ

合衆國政府今次提案中佛領印度支那ニ關スル規定ハ正ニ右態度ノ適例ト稱スヘク佛領印度支那ニ關シ佛國ヲ除キ日、米、英、蘭、支、泰六國間ニ同地域ノ領土主權ノ尊重並ニ貿易及通商ノ均等待遇ヲ約束セントスルハ同地域ヲ六國政府ノ共同保障ノ下ニ立タシメントスルモノニシテ佛國ノ立場ヲ全然無視セル點ハ暫ク措クモ東亞ノ事態ヲ紛糾ニ導キタル最大原因ノ一タル九國條約類似ノ體制ヲ新ニ佛領印度支那ニ擴張セントスルモノト觀ルヘキモノニシテ帝國政府トシテ容認シ得サル所ナリ

外務省

(五)合衆國政府カ支那問題ニ關シ帝國ニ要望セル所ハ或ハ全面撤兵ノ要求ト云ヒ或ハ通商無差別原則ノ無條件適用ト云ヒ何レモ支那ノ現實ヲ無視シ東亞ノ安定勢力タル帝國ノ地位ヲ覆滅セントスルモノナル處合衆國政府カ今次提案ニ於テ重慶政權ヲ除ク如何ナル政權ヲモ軍事的政治的且經濟的ニ支持セサルコトヲ要求シ南京政府ヲ否認シ去ラントスル態度ニ出テタルハ交渉ノ基礎ヲ根柢ヨリ覆スモノト云フヘク右ハ前記援蔣行為停止ノ拒否ト共ニ合衆國政府カ日支間ニ平常狀態ノ復歸及東亞ノ平和ノ回復ヲ阻碍スルノ意思アルコトヲ實證スルモノナリ

外務省

五尙帝國政府ハ交渉ノ急速成立ヲ希望スル見地ヨリ日米交渉妥結ノ際ハ英國其他ノ關係國トノ間ニモ同時調印方ヲ提議シ合衆國政府モ大体之ニ同意ヲ表示セル次第アル處合衆國政府ハ英濠蘭重慶等ト屢々協議セル結果特ニ支那問題ニ關シテハ重慶側ノ意見ニ迎合シ前記諸提案ヲ爲セルモノト認メラレ右諸國ハ何レモ合衆國ト同ジク帝國ノ立場ヲ無視セントスルモノト斷セサルヲ得ス

六惟フニ合衆國政府ノ意圖ハ英國其他ト苟合策動シテ東亞ニ於ケル帝國ノ新秩序建設ニ依ル平和確立ノ努力ヲ妨碍セントスルノミナラス日支兩國ヲ相鬪ハシメ以テ英米ノ利益ヲ擁護セントスルモノナルコトハ今次交渉ヲ通シ明瞭トナリタル所ナリ斯クテ

外務省

S 1.7.3.1-1

1768

358

相互解除、圓弗爲替安定等ノ通商問題乃至支那ニ於ケル治外法權撤廢等本質的ニ不可ナラサル條項ナキニアラサルモ他方四年ニ亘ル支那事變ノ犠牲ヲ無視シ帝國ノ生存ヲ脅威シ權威ヲ冒瀆スルモノナリ從テ全体的ニ觀テ帝國政府トシテハ交渉ノ基礎トシテ到底之ヲ受諾スルヲ得サルヲ遺憾トス

外務省

S 1.7.3.1-1

1767

357

電信寫

絶對
機密

外機密

絶對
機密

115
115
115

Comment

アリ

帝國政府ノ對米通商條約ニ對シテ

一六一三五

S 1.1.3.1-1

1770

360

17

日米國交ヲ調整シ合衆國政府ト相携ヘテ太平洋ノ平和ヲ維持確
立セントスル帝國政府ノ希望ハ遂ニ失ハレタリ
仍テ帝國政府ハ茲ニ合衆國政府カ現在ノ態度ヲ持續スル限り今
後交渉ヲ繼續スルモ妥結ニ達スルヲ得スト認ムルノ外ナキ旨ヲ
合衆國政府ニ通告スルヲ遺憾トスルモノナリ

外務省

S 1.1.3.1-1

1769

359

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

外機密

一六一三五

帝國政府ノ對米迪廉電書(案)

「帝國政府ハ「アメリカ」合衆國政府トノ間ニ友好的諒解ヲ達ケ
 兩國共同ノ努力ニ依リ太平洋地域ニ於ケル平和ヲ確保シ以テ世
 界平和ノ基ヲ築クニ真意セントスル真摯ナル希望ニ促サレ本年四月
 以來合衆國政府トノ間ニ兩國交ノ調整増進並ニ太平洋地域ノ
 安定ニ關シ誠意ヲ傾倒シテ交渉ヲ繼續シ察リタル處過去八ヶ月
 ニ且ル交渉ヲ進シ合衆國政府ノ固持セル主張並ニ此間合衆國及
 英國等ノ帝國ニ對シ執レル態度ニ付茲ニ率直ニ其ノ所信ヲ合衆
 國政府ニ開陳スルノ光榮ヲ有ス

電信寫

ニ 東亞ノ安定ヲ確保シ世界ノ平和ニ寄與シ以テ萬邦ヲシテ各々其

ノ所ヲ得センメントスルハ帝國不動ノ國是ナリ是ニ中東亞諸國ハ
 帝國ノ真意ヲ解セス不幸ニシテ支那事變ノ發生ヲ見ルニ至レル
 モ帝國ハ平和克復ノ努力ヲ爲スルニ共ニ體面ノ擴大ヲ防止セン
 カ爲終始最善ノ努力ヲ致シ來レリ客年九月帝國カ獨伊兩國トノ
 間ニ三國條約ヲ締結シタルモ亦右目的ヲ達成センカ爲ニ他ナラ
 ス

然ルニ合衆國及英國ハ凡有手段ヲ用シテ東亞諸國ヲ助シテ
 日支全面和平ノ成立ヲ助メシ東亞ノ安定ニ對スル帝國ノ建設的
 努力ヲ挫倒セルノミナラス或ハ諸國印度ヲ牽制シ或ハ前記印度
 支那ヲ侵蝕シ帝國ト此等諸地域トカ相提ヘテ共榮ノ理想ヲ實現
 セントスル企圖ヲ阻害セリ更ニ帝國カ佛國トノ間ニ締結シタル

S 1.1.3.1-1

1772

S 1.1.3.1-1

1771

361

外機密

S 1.1.3.1-1 1773

電信寫

S 1.1.3.1-1 1774

議定書ニ基キ佛蘭印展支那共同防衛ノ措置ヲ講スルヤ合衆國政府及英國政府ハ之ヲ以テ自歐領域ニ對スル脅威ナリト斷言シ和蘭國ヲモ亦ヒ實陸軍總司令ヲ以テ帝政トノ經濟衝突ヲ救テシ明カニ歐對的態度ヲ示スト共ニ帝政ニ對スル車輛ヲ増強シ帝國包圍ノ態勢ヲ整ヘ以テ帝政ノ存立ヲ危殆ナラシムルカ如キ情勢ヲ誘致スルニ至レリ

右ニ拘ラス帝政總理大臣ハ本年八月事變ノ急遽收拾ノ爲合衆國大總統ト意見シ和蘭國ニ存在スル太平洋全線ニ亙ル重要問題ヲ討議被討セシコトヲ提議セリ然ルニ合衆國政府ハ右申入レニ主として贊同ヲ與ヘ乍ラ之カ實行ハ和蘭國重要問題ニ關シ意見一致ヲ見タル後トスヘント主張シテ議ラヌ

三、佛蘭印展支那共同防衛ノ措置ヲ講スルヤ合衆國政府及英國政府ハ之ヲ以テ自歐領域ニ對スル脅威ナリト斷言シ和蘭國ヲモ亦ヒ實陸軍總司令ヲ以テ帝政トノ經濟衝突ヲ救テシ明カニ歐對的態度ヲ示スト共ニ帝政ニ對スル車輛ヲ増強シ帝國包圍ノ態勢ヲ整ヘ以テ帝政ノ存立ヲ危殆ナラシムルカ如キ情勢ヲ誘致スルニ至レリ

外機密

電信寫

於テ其必至トスル物其ノ速ヲ保シテ其ルル程相立ニ勝カサル
 日本國情固邊境ハ利便ニ違高自國ヲ實自國情有ノ狀態ニ置
 ルコトハ合衆國政府ハ所存ノ利益ノ爲メ自國情有ノ利益ニ
 津浦鐵路ハ有支那國ノ利益ニ對シテ其力ニ支障ヲ與フルカ加
 守動ニ出テ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對
 平海軍力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其
 ニ強迫ヲラン應ル自國情有ノ利益ニ對シテ其力ニ對シテ其
 前部補償額ハ支那國ノ利益ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對
 彩地ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對
 支那國情有ノ利益ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對
 平ノ紹介者トナルニ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其

二於テ日支和平ヲ維持スル旨ヲ述ベシコトヲ談シタルカ會衆
 國政府ハ右所存ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對
 爲テ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其
 ノ所存ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力
 總ニ十一月二十六日ニ至リ領ヘニ合衆國政府ハ從來國情有
 國ヲ強迫スルノ態度ヲ以テ其力ニ對シテ其力ニ對シテ其力ニ對
 スニ至リタルカ右ハ合衆國政府ノ利益ニ對シテ其力ニ對シテ其

6 1.1.3.1-1 1776

6 1.1.3.1-1 1775

363

外機密

電信寫

與抑々本件交渉開始以來帝國政府ハ終始専ラ公正且其方針ナル態度ヲ以テ注意安結ニ努メ庶々難キヲ忍ビテ能ク限リテ讓歩ヲ致テシタルカ交渉上重要事項タリシ支那問題ニ關シテ其出來當ル限リノ協調的態度ヲ示シ又合衆國政府ノ提唱セル對等商上ノ無差別待遇原則遵守ニ付テハ本原則ノ世界各國ニ行ハレシコトヲ希望シ且其ノ實現ニ願望シテ之ヲ支那ヲモ言ム太平洋地域ニ適用スル機勢カスヘキ旨ヲ表明シ尙支那ニ於ケル第三國ノ公正ナル經濟活動ハ何等之レ排除スルモノニアラサルコトヲ示附候セルカ員ニ佛領印度支那ヨリノ撤兵ニ付テモ其勢細ニ察スルカ爲前送ノ如ク兩部佛領ヨリノ即時撤兵ヲ達シテ提議スル機力受附ノ精神ヲ發揮セルハ合衆國政府ノ夙ニ願望スル所ナリト信ス

然ルニ合衆國政府ハ常ニ理想ニ拘泥シ現實ヲ無視シ其範圍スル非實際的原則ヲ固執シテ何等讓歩セズ從ニ交渉ヲ延延セシメタルハ帝國政府ノ諒解ニ苦ム所ナルカ併ニ左記諸點ニ付テハ合衆國政府ノ注意ヲ喚起セサルヲ得ス

外機密

電信寫

10

(一) 合衆國政府ハ世界平和ヲ爲ナリト稱シテ自己ニ好都合ナル諸原
 則ヲ主張シ之カ操縦ヲ帝國政府ニ迫レル處世界ノ平和ハ現實ニ
 立脚シ且相手國ノ立場ニ理解ヲ持シ相互ニ受諾シ得ヘキ方法ヲ
 發見スルコトニ依リテノミ具現シ得ルモノニシテ現狀ヲ無視シ
 一國ノ獨善的主張ヲ相手國ニ強要スルカ如ク強要ハ交渉ノ成立
 ヲ促進スル所以ノモノニアラス

今茲合衆國政府カ日米協定ノ遂行トシテ疑義セル諸原則ニ付キ
 アハ石ノ中ニハ帝國政府トシテ懸念ニ付テ質問ニ答ナラサルモ
 ノアルモ世界ノ現狀ニ鑑ミ既ニ之ヲ操縦セントスルハ國家ノ興
 念ニ關ラルルモノト云フノ觀ナシ

尙亦日、米、英、法、露、義、葡、比、日、韓ニ對シテ協定ノ
 締結スルノ要ノ行キモ從ニ協定ノ平和協定ノ實効ヲ起スルヲ
 果東亞ノ實情ト考慮セラルモノナルノミナラズ且獨伊三國協約ヲ
 有名無實ナラシムルモノナルニ依リ帝國政府ノ調査シ察スルハ

リ

(二) 合衆國政府今茲ノ提議中ニ一自國政府カ第三國ト協定シ得ル如
 何ナルハ協定モ取締ノ根本自國タル太平洋全地ノ平和協定ニ矛
 盾スルカ如ク理解セラレザルコトニ付合意ス一トアルハ即合衆
 國カ該協定承認ノ場合ニ於ケル帝國ノ三國協約上ノ義務履行
 ヲ牽制セントスル意圖ヲ以テ提議セルモノト認メラルル

右ハ帝國政府ノ所シテ提議シ得サル所ナリ

由來
 合衆國政府ハ或ノ自己ノ主張ト雖也トニ感感セラレ自ラ戰争體

S 1.1.3.1-1 1780

S 1.1.3.1-1 1779

365

外機密

電信寫

12

大ヲ企圖シツツアリト謂ハサルヲ得ス合衆國政府ハ一方太平洋
 東域ノ安定ヲ兼シ自國ノ背後ヲ安固トシツツ他方英帝國ヲ凌ケ
 歐洲新秩序建設ニ邁進スルヲ伊爾國ニ對シ自衛權ノ名ノ下ニ進
 ンテ攻撃ヲ加ヘントスルモノナルカ右ハ太平洋東域ニ平和の手
 段ニ依リ安定ノ基礎ヲ築カントスル幾多ノ原則的主張ト全ク矛盾
 盾背馳スルモノナリ
 合衆子、如竹、無、自己、を、將、ト
 何、念、ト、能、感、也、う、し、自、う、致、手、標、大、リ、企、圖、セ、ン、ト、ス、モ、
 ニ、シ、テ、帝、子、政、府、ノ、核、心、ヲ、背、キ、ト、ス、ル、ハ、イ、ク

（合衆國對帝ハ其ノ西海スル王派ニ於テ武力ニ依リ對峙状態
 現ヲ維持シツツ一方英帝國對ト共ニ經濟力ニ依リ進退ヲ加ヘ
 ツツテ其の進退ニ應じて對峙ニ依リテハ武力に對して以上ノ非人道
 的行動ニシテテ國際關係を維持ノ手段トシテ等シク併進セラルヘ
 キモノナリ

（合衆國政府ノ意圖ハ英帝國以外ノ諸國ヲ誘引シ支那ノ領土
 印度支那亞細亞諸地ニ對シ其の特殊地位ヲ保持スルニ對シ地位
 ヲ維持進化セントスルモノト見ルノ外餘キ餘氣無ク其の力ヲ去
 百有餘年ニ亘リ英米ノ帝國主義的擴張政策ノ下ニ對峙維持フ
 其ヒラレ兩國關係ノ進展タルニ對シテサレバ得カリス歴史向
 事蹟ニ鑑ミ右ハ其の種ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメントスル當

S 1.1.3.1-1 1782

S 1.1.3.1-1 1781

366

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

外機密

電信寫

14

國ノ根本國策ト全然背馳スルモノニシテ帝國政府ノ斷シテ容
 認スル能ハサル所ナリ
 合衆國政府今次提案中佛領印度支那ニ關スル規定ハ正ニ右條
 度ノ道例ト稱スヘク佛領印度支那ニ關シ佛國ヲ除キ日、米、
 英、蘭、又、泰六國同ニ同地域ノ領土主權ノ尊重ニ貿易及
 通商ノ均等待遇ヲ約束セントスルハ同地域ヲ六國政府ノ共同
 保護ノ下ニ立タシメントスルモノニシテ佛國ノ立場ヲ全然無
 視セル點ハ百ク當クモ東亞ノ事變ヲ紛糾ニ導キタル最大原因
 ノ一タル九國條約類似ノ磋商ヲ斷ニ佛領印度支那ニ牽連セン
 トスルモノト見ルハキモノニシテ帝國政府トシテ容認シ得サ
 ル所ナリ

(四)合衆國政府カ支那問題ニ關シ帝國ニ要望セル所ハ或ハ全面協
 兵ノ要求ト云ヒ或ハ通商無差別原則ノ無條件適用ト云ヒ何レ
 モ支那ノ現狀ヲ無視シ東亞ノ安定努力タル帝國ノ地位ヲ損傷
 セントスルモノナル處合衆國政府カ今次提案ニ於テ重要條件
 ヲ除ク如何ナル政體ヲモ軍事的政治的且經濟的ニ支持セザル
 コトヲ要求シ南京政府ヲ否認シ去ラントスルニ出テタル
 ハ交渉ノ基礎ヲ根柢ヨリ覆スモノト云フヘク右ハ前記諸條件
 無停止ノ拒否ト共ニ合衆國政府カ日支間ニ平常狀態ヲ復舊及
 東亞ノ平和ヲ回復スルノ意思アルコトヲ明瞭ニ示スルモ
 ナリ

要之今次合衆國政府ノ提案中ニハ通商條約締結、行政凍結令

8 1.1.3.1-1

1784

8 1.1.3.1-1

1783

367

外機密

相互解除、固弗爲替安定等ノ通商問題乃至支那ニ於ケル治外法
權撤廢等本質的ニ不可ナラサル條項ナキニアラサルモ他方四年
ニ亘ル支那專權ノ犧牲ヲ無視シ帝國ノ生存ヲ脅威シ權威ヲ冒瀆
スルモノナリ從テ全体的ニ觀テ帝國政府トシテハ交渉ノ基礎ト
シテ到底之ヲ受諾スルヲ俾サルヲ遺憾トス

電信寫

五尙帝國政府ハ交渉ノ急速成立ヲ希望スル見地ヨリ日米交渉安結
ノ際ハ英國其他ノ關係國トノ間ニモ同時調印方ヲ提議シ合衆國
政府モ大体之ニ同意ヲ表示セル次第アル處合衆國政府ハ英豪爾
重慶等ト屢々協議セル結果特ニ支那問題ニ關シテハ重慶側ノ意
見ニ迎合シ前記諸提案ヲ爲セルモノト認メラレ右諸國ハ何レモ
合衆國ト同ジク帝國ノ立場ヲ無視ヤントスルモノト斷セサルヲ
得ス

六惟フニ合衆國政府ノ意圖ハ英國其他ト苟合策動シテ東亞ニ於ケ
ル帝國ノ新秩序建設ニ依ル平和確立ノ努力ヲ妨碍セントスルノ
ミナラス日支兩國ヲ相關ハシメ以テ英米ノ利益ヲ擁護セントス
ルモノナルコトハ今次交渉ヲ通シ明瞭トナリタル所ナリ斯クテ

國家機密

帝國政府ノ對米通牒覺書

一六一三六

1.1.3.1-1

1788

370

電信寫

外機密

日米國交ヲ關係シ合衆國政府ト相對ヘテ大平條ノ締結ヲ實現スルニ
 立ヤントスル帝國政府ノ希望ハ甚ニ大ハレタリ
 然レテ帝國政府ハ茲ニ合衆國政府ノ現在ノ態度ヲ察シテ其ノ
 交渉ヲ監視スルモ妥結ニ達スルヲ得スト認ムルノ外ナキ旨ヲ
 合衆國政府ニ通告スルヲ遺憾トスルモノナリ

8 1.1.3.1-1

1787

369